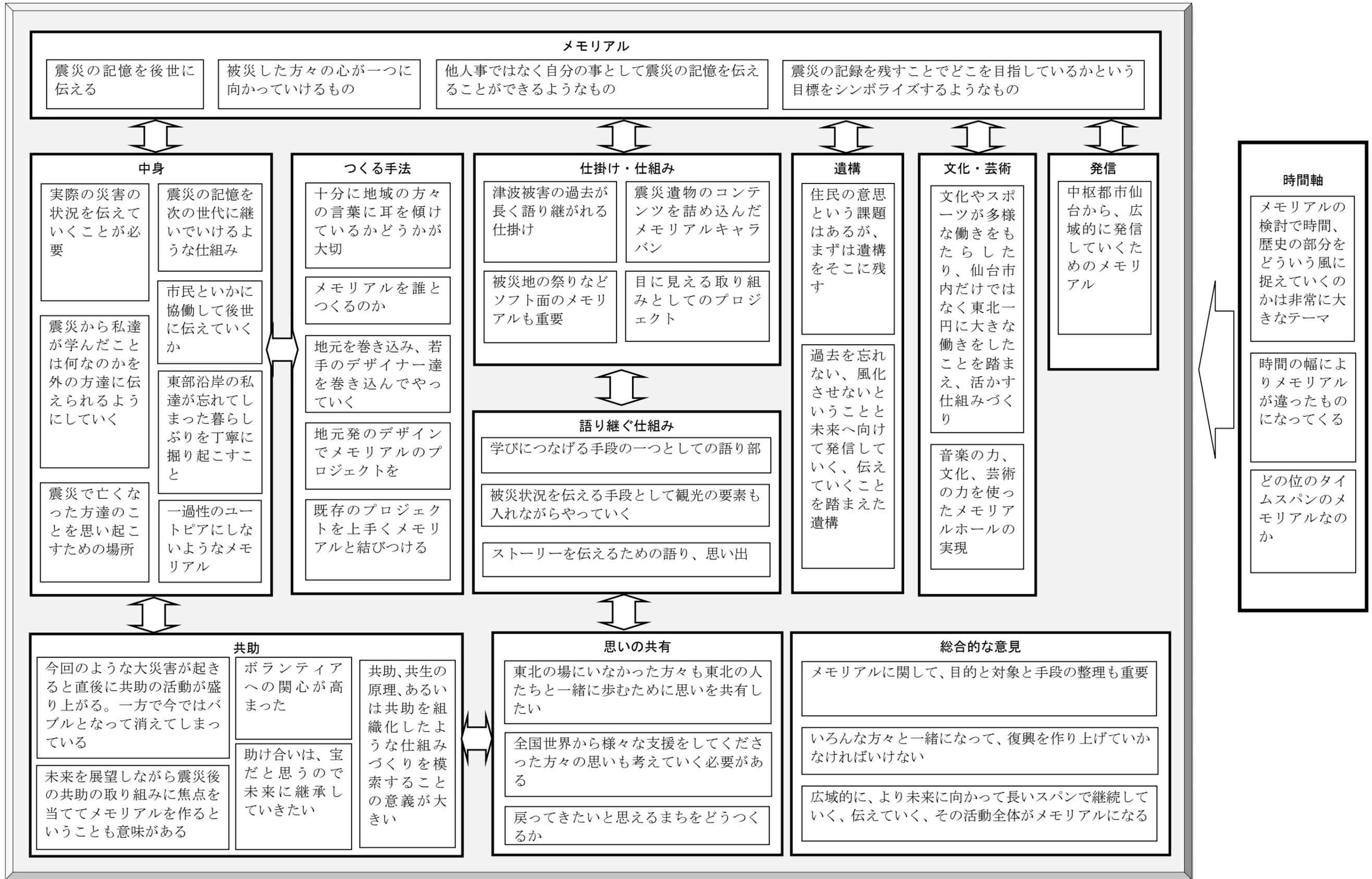


■第1回検討委員会での意見を踏まえた論点の整理について



◆第1回検討委員会でいただいたご意見

カテゴリ	検討委員会での意見
メモリアル	震災の記憶を後世に伝える 被災した方々の心が一つに向かっていけるもの 他人事ではなく自分事として震災の記憶を伝える 目標をシンボライズするもの
発信	仙台から広域的に発信するためのメモリアル
中身	実際の災害の状況を伝える 震災から学んだことは何かを外の方たちに伝える 慰霊と鎮魂の場所 震災の記憶を次の世代に継ぐ仕組み 市民との協働により後世に伝える 東部沿岸地域の暮らしを丁寧に掘り起こす 思いを継続させる仕組み
作る手法	地域の方々の言葉に耳を傾ける 誰とメモリアルを作るのか 地元や若手のデザイナーを巻き込む 地元発のデザインでのメモリアルプロジェクト 既存のプロジェクトをメモリアルと結びつける
仕掛け・仕組み	過去の津波被害を長く語り継ぐ仕掛け 祭りなどソフト面のメモリアル 遺構などのコンテンツを詰め込んだメモリアルキャラバン 目に見えるプロジェクト 学びにつなげる手段 被災状況を伝える手段としての観光 ストーリーを伝えるための語り、思い出
遺構	住民の意思により撤去するだけでなく遺構を残す 風化の防止と未来への発信のための遺構
時間軸	時間、歴史をどのように捉えるか 時間の幅 メモリアルのタイムスパン
文化・芸術	文化・スポーツを活かす仕組みづくり 音楽の力、文化、芸術の力を活かしたメモリアルホール
共助	未来を展望しつつ震災後の共助の取り組みに焦点を当てる ボランティアへの関心が高まる 助け合いの精神の継承 共助、共生の原理、共助を組織化したような仕組みづくり
思いの共有	東北にいなかった方々と被災者が共に歩むためのメモリアル 全国・世界からの支援をしてくださった方々の思いを生かす 戻ってきたいと思えるまちづくり
総合的な意見	目的と対象と手段の整理 いろんな方々と繋がり合った復興を作り上げる より広域的・より未来に向かって長いスパンで継続していく、伝えていく、その活動全体がメモリアルにつながる

◆震災復興メモリアルの検討にあたっての時間の考え方

